

愛知県地質調査業協会の活動報告

愛知県地質調査業協会 副会長 大久保 卓

一般社団法人 中部地質調査業協会が創立60周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。愛知県支部 愛知県地質調査業協会の2011年から10年間の活動状況を報告致します。

毎年、県及び市町に（一社）中部地質調査業協会広報活動並びに愛知県地質調査業協会の広報活動を5月～7月中に実施しております。又、会員相互の懇親を図る為、新年会等を実施しております。

以下、3項目について活動報告致します。

①愛知県内の出先建設事務所の出前講習会について ②災害協定締結について ③愛知県地質調査業協会の創立30周年事業

①愛知県内の出先建設事務所への出前講習会について

愛知県内にある出先建設事務所及び管内市町に対しまして、出前講習会を実施致しました。地質調査業の必要性、重要性について広報活動の一環として実施しております。講演内容としましては、「地盤調査手法及び土質試験法について」「設計に必要な地盤調査計画と調査内容」「管内の地形地質を踏まえた調査発注における留意点」が主な講習内容です。

年 度	事 務 所	開 催 日	出 席 数
平成23年度(2011年)	知多建設事務所	H23.10.18	67名
	県公共建築	H23.11.30	37名
平成24年度(2012年)	海部建設事務所	H24.12.04	31名
平成25年度(2013年)	豊田加茂建設事務所	H25.07.24	72名
	東三河建設事務所	H25.11.29	27名
	名古屋港管理組合	H26.02.28	59名
平成26年度(2014年)	西三河建設事務所	H26.11.17	31名
	新城設楽建設事務所	H26.12.15	26名
平成27年度(2015年)	豊田加茂建設事務所	H28.01.21	35名
平成28年度(2016年)	一宮建設事務所	H29.01.17	41名
平成29年度(2017年)	豊田加茂建設事務所	H29.09.05	43名
	知多建設事務所	H29.12.11	48名
平成30年度(2018年)	知立建設事務所	H31.02.06	33名
令和元年(2019年)	一宮建設事務所	R01.07.24	43名
	海部建設事務所	R1.09.03	33名
	豊田加茂建設事務所	R1.10.01	20名
	西三河建設事務所	R1.10.30	32名
令和2年度(2020年)	新型コロナウイルス感染拡大により中止		

出席者については、管内の市町からの参加も含みます。

又、令和元年7月19日、愛知県地質調査業主催での技術勉強会・研修会を実施しました。題目として、「発注者の要望と課題、技術的対応」について、中部土質試験協同組合の会議室にて参加者35名(22社)で行いました。



②災害協定締結について

2012年(平成24年2月16日)愛知県との防災協定を締結する。
2012年(平成24年2月27日)中部地質調査業協会との防災協定書を締結する。
2020年(令和2年3月10日)名古屋港管理組合との防災協定を締結する。
防災協定締結後、数十回の出動要請があり、全て協会員会社にて対応しております。

③愛知県地質調査業協会の創立30周年事業

2018年(平成30年)に、愛知県地質調査業協会の創立30周年を迎える事が出来ました。創立30周年記念行事として、平成30年10月3日～10月5日にて、北海道へ記念研修旅行を実施致しました。

【愛知県地質調査業協会 設立30周年 記念研修旅行】

○日 時：平成30年10月3日(水)～10月5日(金) 3日間
○研修場所：北海道(洞爺湖有珠山ジオパーク・他)

約11万年前の巨大噴火でできた洞爺湖、約2万年前の火山活動でできた有珠山など、繰り返される火山活動によって変動する大地の姿を体感することができました。縄文の人々の暮らしが分かる遺跡やアイヌの人々の生活の証なども多く残され、火山と共生してきた人々の歴史なども垣間見ることができたことなど、有意義な研修となりました。



以上をもちまして、愛知県地質調査業協会の活動報告を終了致します。今後も創立60周年の実績を礎に、中部圏の安全・安心で魅力ある地域づくりに努力してまいります。

岐阜県地質調査業協会の活動報告

岐阜県地質調査業協会 会長 大橋 大輔

中部地質調査業協会岐阜県支部は、昭和54年に会員10社で設立された岐阜県地質調査業協会を母体として、昭和61年に中部地質調査業協会へ岐阜県支部として参画し、令和3年度の総会時には17社となっております。この間、平成30年には創立40周年を迎えることが出来ました。これも地質調査の必要性・重要性をご理解いただいた関係各位の皆様方のご支援とご高配の賜物と深く感謝いたしております。

40周年記念式典を岐阜県議会議員様、岐阜県幹部様をはじめとして来賓11名、会員34名の出席にて開催しました。



40周年記念式典

岐阜県支部は、令和3年度の予算として約280万円にて運営しています。役員構成は会長以下、副会長、総務委員長、広報委員長、技術委員長、防災対策委員長、取引適正化委員長の7名で、各役員の指揮の下全協会員が一体となって活動しております。

当支部の活動は、中部地質調査業協会ならびに愛知県支部、三重県支部と連携を図りながら、下記の事業計画を定め実施しています。

- ・ 広報活動の実施
- ・ 会員の技術向上を目的とする研修活動
- ・ 会員相互の親睦を図る行事の実施
- ・ 関連学会、関連協会への協力と提携

最近の活動について以下にご紹介します。

1. 地質調査業の重要性和岐阜県支部の存在価値、認知度の向上を目指し、発注者への協会員名簿の配布・要望活動、建通新聞への広告掲載などの広報活動を実施しています。
2. 毎年、(財)岐阜県建設研究センターが実施する「県・市町村建設技術職員研修」へ講師を派遣し、地質調査の概要とその結果の利活用、県内の地形

地質の特徴、構造物基礎の地質調査方法などの研修活動を通じ職員の技術向上に寄与すると共に岐阜県支部の広報活動としても大きな成果を挙げています。

3. 岐阜大学地域交流協力会および岐阜県社会基盤研究所等の研究発表会等へ参加し、地域の社会基盤整備に貢献しています。
4. 岐阜県と災害応援協定を締結しており、災害時における災害状況の確認、二次災害の評価提言、地質に起因する原因究明、地質調査、緊急的な応急対策の提案等の支援体制を整えて対応しています。令和3年4月に内容を見直し、災害応援協定を再締結しました。これにより、より迅速に災害対応が出来るようになりました。



岐阜県との災害応援協定締結

地質調査業は公共事業の一翼を担っており、良質で安全な社会資本を提供することが必要かつ重要になります。近年、岐阜県内でも集中豪雨等による災害が多発しております。災害対応だけでなく、防災・減災の観点からも地質調査業の重要性は増してきていると思います。

今後、当支部としては地域に密着した専門技術集団として、顧客の要望に応えるために協会員の更なる技術力の向上に努めていきたいと思っております。

また、生産年齢人口の減少、高齢者の退職等により、担い手の不足が懸念されております。協会では職場環境の改善、長時間労働の是正、ノー残業デー等の施策を推進し、魅力ある業界づくりに努めております。

関係各位におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

三重県地質調査業協会の活動報告

三重県地質調査業協会 会長 伊藤 重和

三重県地質調査業協会は昭和60年8月に会員数10社で設立され、37年目を迎えた現在、13社(本会員4社、営業所会員9社)で運営されており、4つの主な事業活動に取り組んでいます。

1. 建設技術研修会(地質調査)

毎年、公益財団法人三重県建設技術センターが実施している建設技術研修『地質調査』に共催しています。

協会の技術委員会から講師を派遣し三重県の地形・地質、地質調査の計画、室内土質試験についての講義を実施しております。

また何年かに一度は実際のボーリングマシンを使った現場研修及び土質試験実習を名古屋市守山区にある中部土質試験協同組合内で行っています。参加者は官公庁が主体となっていますが、一般の方からの参加も受け付けております。



中部土質試験協同組合内での実習(平成29年)

2. 三重県関係及び市町への要望活動

広報委員会の主な活動で三重県庁、企業庁、三重県建設技術センター、三重県の各関係出先事務所、市役所等に挨拶状、協会員名簿、協会機関誌「土と岩」、全地連機関紙「地質と調査」等を配布し、協会のPR活動や意見交換を行っています。

3. 地質巡検

技術委員会が企画するバスを使った地質巡検を隔年で実施、協会発足以来、計18回開催されています。毎回『キーワード』を決め実際に地形地質の見学や地質的景勝地を巡っており最近の10年は以下の通りです。

平成23年度は「阪神淡路大震災の痕跡を巡り防災に

ついて考える」とし、阪神淡路大震災記念館(人と防災未来センター)や神戸震災メモリアルパーク、北淡震災記念館を訪問しました。平成25年度には「伊豆・箱根周辺の地質的景勝地を巡る」と題し大涌谷等を訪問、平成28年度は「信州の地形地質と歴史を巡る」とし、中央構造線と糸魚川-静岡構造線と諏訪湖、地形地質を最大限利用した難攻不落の上田城、善光寺と善光寺地震を勉強してまいりました。

また、平成30年度には「瀬戸内火山岩類の噴火の中心地である小豆島と日本三大渓谷美のひとつ寒霞渓を巡る」とし、活動してきましたが、それ以降は新型コロナウイルス感染対策のため実施できていません。

4. 三重県からの災害支援協力要請への対応

三重県地質調査業協会では平成19年3月28日に三重県県土整備部との間で締結された『地震・津波・風水害等の緊急時における協定』により三重県内で地震・津波・風水害等の災害が発生した際、地盤等の被災状況調査を実施し復旧工法について技術的指導及び今後の対応方針についての助言を行っています。

平成23年度は5件対応、平成24、25、26年度は要請なし、平成27年度3件、平成28年度2件、平成29年度14件、平成30年度1件、令和元年度(平成31年度)4件、令和2年度3件、令和3年度4件となっていますが豪雨に伴う土砂崩れがほとんどで中南勢地域が多い傾向にあります。

災害要請は三重県県土整備部施設災害対策課より事務局に直接電話及びメールでの要請があり、迅速に対応できる協会員が出動して対応しております。

以上、簡単ではございますが 三重県地質調査業協会の活動報告とさせていただくとともに、次の10年に向けて、積極的に活動してまいります。

静岡県地質調査業協会の活動報告

静岡県地質調査業協会 会長 松浦 好樹

静岡県協会は、現在16社全て県内業者で構成されております。毎年大きなイベントとして、ジオフォーラム、地盤技術研修会を開催しております。

ジオフォーラムは、会員技術者と発注者技術者の交流を目的とする技術発表の場を設けております。200名を超える参加者があり、毎年発注者から大きな期待を寄せられております。

地盤技術講習会は、協会内技術者の勉強の場として毎年大学の先生をはじめ、優れた技術を持つ講師の方々をお呼びしてテーマに沿った勉強会を開催しており、県内地質技術者の技術力の向上と研鑽を目的としております。

私たちが取り組んだこの10年のジオフォーラム、地盤技術研修会の歩みです。

2011年

第12回 ジオフォーラム2011 in静岡

テーマ「地質調査を広く知ってもらおう」

第4回 地盤技術講習会

テーマ「ニューマーク法ってどんな法」

2012年

第13回 ジオフォーラム2012 in静岡

テーマ「土質試験」

第5回 地盤技術講習会

テーマ「長周期地震動に対する耐震設計の課題」

2013年

第14回 ジオフォーラム2013 in静岡

テーマ「物理探査で広がる地盤評価」

第6回 地盤技術講習会

テーマ「最近の自然災害を題材として」



地盤技術研修会の様子

2014年

第15回 ジオフォーラム2014 in静岡

テーマ「斜面災害・計測技術と解析」

第7回 地盤技術講習会

テーマ「活断層や活構造に関わる最近の話題 技術者倫理等について」

2015年

第16回 ジオフォーラム2015 in静岡

テーマ「リスクのある地形・地質を知ることが、事業効率を上げることに寄与することを知っているだろうか」

第8回 地盤技術講習会

テーマ「応用地形判読士を目指して」

2016年

第17回 ジオフォーラム2016 in静岡 高校生とのコラボ発表

テーマ「土質試験の活用」

第9回 地盤技術講習会

テーマ「平地域、斜面域における最新のトピックス物理探査の基本原則から適用について」



ジオフォーラム、高校生とのコラボ発表の様子

2017年

第18回 ジオフォーラム2017 in静岡

テーマ「地盤の安全性」

第10回 地盤技術講習会

テーマ「地盤技術者としての災害時心身ケア」

2018年

第19回 ジオフォーラム2018 in静岡

テーマ「火山とのかかわり、地質リスクへの対応」

第11回 地盤技術講習会

テーマ「物理探査(振動系)に関わる技術・事例紹介 海洋調査の最新動向」

2019年

第20回 ジオフォーラム2019 in静岡

テーマ「盛り土を考える」

第4回 地盤技術講習会

テーマ「農薬用ため池の耐震性能照査について 山地域の土砂堆積～移動等に関する研究」

2020年

新型コロナウイルスの影響によりすべての協会活動を中止しました。